

本人



PROFILE



ふみひと
すがわら文仁
35歳

- 昭和50年7月30日生まれ 35歳
戸田市立美谷本小学校 美笹中学校 伊奈学園総合高校
日本体育大学卒業 明治大学大学院修了(公共政策学)
- 平成17年市議会議員選挙 1993票(2位)
平成21年市議会議員選挙 4143票(市政歴代で1位に)
市民生活常任委員会 無所属一人会派で奮闘中
- 戸田市体操協会会長 埼玉坂本龍馬会幹事 若手政治家養成塾事務局長
上田きよし政治塾運営委員 地方自治学会会員 日本自治体危機管理学会会員
- 資格は保健・体育の教員免許 趣味は読書 史跡めぐり B級グルメ探索
特技はバク転 のび太並みの早寝
好きな言葉は米沢藩主 上杉鷹山公の「なせばなる、なさねばならぬ、なにごとも」
夢は努力した人が報われる社会の実現

〒335-0031 戸田市美女木8-21-6 Tel.048-422-1673 Fax.048-422-1673
URL.http://www.sugawarafumihito.com
e-mail.sawayaka@sugawarafumihito.com

【対談を終えて】

時に私の師であり、良きライバルのお二人。いつもお会いすると刺激をいただいております。白土さんを一言で言うところ「お祭り大好きの気さくなお兄さん」。井上さんは「冷静の中に情熱を秘めたさわやか青年」です。それぞれの街の将来の為に本気で取り組む政治家です。

今回の対談では、改めて「若者が戦いを恐れていては、政治が変わらない」という思いを強くしました。そして、こんな励ましを思い出しました。「すがわら君はまだ若いのだから、もっとゆっくり勉強したほうがいいよ」というご心配です。確かに私は35歳であり、政治家としては若いかもしれませんが、また人生においても時間的な余裕があるのかもしれない。しかし、今の政治情勢や私の課題認識からすれば、少しの余裕もなく、深刻な状況と考えています。停滞する地方政治を変えるため、今後自分の現状に甘んじることなく、さらなる挑戦をしますので、叱咤激励をよろしく願います。

すがわら文仁が2年間で推進した政策の状況 (一部です)

◎提言により改善 ○改善予定 ▲検討中 ✕検討せず

21年 3月議会

- ◎ストリートビューに対する法規制に関する意見書(国に提出済)
- フィルム・コミッションの設立
- 全公園のバリアフリー化
- ▲予算編成過程の公開
- ▲防災条例の制定
- ▲中学校に柔道部創設を
- ✕事業仕分けの導入

21年 6月議会

- ◎いじめ防止を委員会テーマに(実施済)
- ◎競艇収益金の使途明確化(予算編成方針に反映)
- ◎産・学・官連による生涯学習機会の拡大
- ▲「ゆるキャラ」の活用
- ▲コンプライアンス条例の制定

21年 9月議会

- ◎ひとり親家庭の就業と自立支援の推進(事業化済)
- ▲市独自のナンバー(課税標識)を提言
- ▲戸田ヶ原自然再生事業の見直しとムダ総点検の要望
- ✕庁舎耐震化における工法の慎重なる検討の要望
- ✕ひとり親家庭支援計画の策定

21年12月議会

- ◎ずさんな入札に関する5つの議案に反対(否決)
- ジェネリック医薬品導入による経費削減
- 公共施設白書による施設マネジメント
- ✕ドクターカー導入による救急医療体制の充実

22年3月議会

- ◎財政年次報告書の作成(作成済)
- ◎戸田公園駅前行政センター連絡通路の転落防止柵設置(設置済)
- ◎ネットいじめ根絶に関する決議(議決済)
- ◎中小企業振興条例策定を委員会テーマに(実施中)
- ▲野良猫の繁殖抑制と飼育モラル向上
- ▲ラジオ体操普及による保健

22年6月議会

- ◎県指定15事務の権限移譲(平成23年度に5事業)
- ◎議会の議決範囲を拡大(条例改正済)
- ◎埼京線3駅にホームドア設置(市のJRに対する要望)
- ◎市内中小企業に対するアンケートとヒアリング提言(実施済)
- ▲提案型公共サービス民営化制度の導入
- ▲市非常勤職員の給与をインセンティブ化

22年9月議会

- ◎教育委員会資料の情報公開
- 不納欠損基準と債権管理基準の作成
- ▲公文書管理条例の制定
- ✕庁議資料と会議の情報公開
- ✕行政財産(自動販売機)活用による歳入確保

22年12月議会に提案中!

- 規格外県産米の支援
- 自治体間連携による広域課題対応
- 雨水浸透施設などの普及による総合的な市民治水の拡大
- 河川敷の民間開放によるにぎわい創出
- 河川管理条例制定

子どもにいつかをまわらなう... http://www.sugawarafumihito.com/



●募集しています！ボランティアスタッフさん！
すがわら事務所では、ボランティアによる手作りの政治活動を行っています。全身全霊で理想の政治を追求するすがわらの活動を応援していただけるボランティアスタッフさんを募集しています。お手伝いいただける方はお気軽にご連絡ください。お手伝いの内容○政策レポートのポスティング○あて名書きなどの事務○事務所の受付○ウエイスマン、カラスボーイ○ポスター貼り○運転など メール sawayaka@sugawarafumihito.com 移動事務所 090-8462-6482

政治家が変われば、政治は変わる！



すがわら文仁×
クロストーク第二弾

ふみひと
すがわら文仁

戸田市議会議員 無所属



ゆきひと
白土幸仁

春日部市議会議員 無所属

わたる
井上航

和光市議会議員 無所属

「クロストーク」は、様々な分野で活躍されている方とすがわら文仁の対話によって、政治や行政の課題解決を探ります。第二弾として、若手政治家の同志、春日部市議会の白土幸仁議員と和光市議会の井上航議員にお話を伺いました。

すがわら 本日は荒川の自然に囲まれながら対談となりました。お忙しい中、戸田市の誇る「彩湖道満グリーンパーク」にお越し下さいます、ありがとうございます。

白土 自然の中で議論するのも、なんだかいいですね。よろしくお願ひします。

井上 お世話になっております。楽しみです。



若手政治家養成塾について

すがわら 私たちは地方議員ですが、地方から埼玉、そして日本を改革したいと考え、県内の無所属で頑張る若手政治家を集めて塾を作りましたね。

白土 確かあれは05年の郵政解散のときでしたが、菅原君が塾の構想を持ちかけてくれて、仲間を集めて立ち上げたのだけど、はじめは大変でしたね。

すがわら 本当ですね(笑)。みんな手弁当ですから。みんなでラーメン食べて、お釣りを塾の運営費にして発足したのです。

井上 菅原さん、そのような努力をしていたのですか。涙ぐましいですね。

すがわら お金をかけずにやるのが我々の流儀ですからね。塾では政治哲学と政策立案、それと政策実現の行動力、そしてリーダーシップといった政治の基礎力を養うことが大切だと考え

て、勉強をしましたね。座学よりも実学でした。

白土 塾生も、運営スタッフも勉強熱心で、志の高い方々が多いですね。仲間の松本さんは和光市の市長になって活躍していますし、塾で学んで当選した皆さんも地方からの改革の表現に頑張っています。

井上 私も学生時代から政治家を志していましたから、養成塾には感謝しています。白土さん、菅原さん、当時市議だった和光市長の松本さんから、第二期として塾を引き継がせていただきました。現在は十人の塾生と頑張っています。おかげ様でたくさんの良い仲間と出会いました。

すがわら 養成塾のような活動が、地方から国を動かす一歩となると確信しています。そのためには我々と同様の

井上 「政治家が自立の精神をもって発信していかねばと思います」
すがわら 「今の政治家は下級武士のような情熱と使命感が必要なんです」

活動を全国の若者が同時多発的に行って、地方から政治を動かすような運動も必要だと思っています。それをどのように具体化するかは、まだ模索中です。

白土 そのような意味では、マスメディアやインターネットの存在は大きいですね。養成塾は5大新聞全紙に取材されて記事になりましたし、テレビの報道番組にも20分間特集されました。視聴者からの問い合わせもたくさんいただきました。

すがわら 確かに。私が驚いたのは、高校生の教科副読書で自分たちの活動を掲載して頂いたことです。我々も教科書に取り上げてもらえることをやっている実感、嬉しい半面、政治家として責任も感じましたね。井上さんの二期目はどうですか。

井上 一期生同志で連携して多くの同志と研鑽しています。講義の内容をさらに充実させて大学教授からも活動を応援してもらいました。私たち第二期の養成塾も新聞や雑誌に多く取り上げられまし



▲左から朝日新聞記事/R25に掲載/高校教科副読書に掲載

地方政治家は下級武士のように

井上 ところで、昨年の政権交代への期待から一転、今政治が本当に混乱と不信を極めていきます。今後の地方政治はどのようなべきでしょうか。

白土 政党という観点からは、冷戦後はイデオロギー対立もなくなりまして、広い意味の保守政党の間に、明確な政策の違いがあるのか疑問です。都合のいいことばかり言う衆愚政治になっていないかと心配していますよ。

すがわら 国会は政党が数合わせの道具になっていきますよね。民主党は綱領もないということですが大丈夫なんでしょうか。政策を中心にして議論する

政策が望まれますよ。防衛や外交、経済政策、社会保障の再構築とか、もう待たないでほしい。政治不信は私にも厳しい声として届いています。一方で、地方政治はもっと自立していく道を模索しなければと思います。地方分権で、国と県、県と市の関係が大きく変わる時期になっていますよね。

井上 埼玉県だけで解決できない問題があると思います。道州制も視野に入れて地方自治体の新しい設計を考えなければいけないと思います。

すがわら 地方自治が岐路に立たされていますよ。でも、それを担う都道府県議会は改革を引っ張っていない。住

民に見えにくいところですから。埼玉県には財政問題はじめ課題が山積みです。

井上 先日、日経の議会改革度ランキングを見ましたが、埼玉県議会は38位だそうです。県政改革も急務ですね。ところで、話は変わりますが、無所属では何もできないって言われますが、どう思いますか。

白土 私は否定的ですね。国会と地方は違うし、実感として支障なく政策実現できているので。そもそも地方自治は市長と議員の二元代表制だから、国会の与野党のような議員同士の対立的な政党主導の政治はなじまないし、政党の方針と市民の多数意思が対立した時にどうするのか、という問題もあります。

すがわら 何より我々が政党の方より自信をもってするのは、直接の市民の声から政策を提案していくことができるということですね。

井上 橋下知事の大阪の維新の会などは地域の声を集約するようなローカルパーティを作っています。こういう運動はその地域ごとに、あっていいと思いますね。

白土 たしかに、地域は大政党の論理で割り切れない問題があるし、机上の空論や上からよりも、肌感覚で政策

の善し悪しを考えることで、市民や県民に一番近い判断ができる。
井上 でもそれには、政治家が自立の精神をもって発信していかねばならないと思いますね。福沢諭吉翁の「一身独立し一國独立す」ですね。

すがわら ですから、今まさに幕末に似ているような危機的状況があって、国も地方も苦しい状況に陥っているわけですよ。つまりしがらみのない若手の地方政治家は幕末の下級武士のような存在になるべきだと思います。地域から湧きあがってくるような名もなき政治家が、地方自治体の自立を成し遂げようと大真面目に考えていかねばならない。今の政治家は下級武士のような情熱と使命感が必要なんですよ。

井上 菅原さん、相変わらず熱い(笑)。



▶若手政治家養成塾街頭活動

▼テレビ取材



て、次世代にその模範を示していかなくてははいけないと思います。養成塾はそういう存在でありたいですね。





それぞれの取り組み

井上 私事で恐縮なのですが、先日「第5回マニフェスト大賞」で優秀コミュニケーション賞を受賞させていただきました。若手の多くが同じような志を持って活動していますが、今回は運よく私が受賞しました。

すがわら それは素晴らしいですね。地道な努力は必ずや報われるものです。私も井上さんに負けないように頑張りますよ。

白土 おめでとう。仲間が努力して成果を挙げたときには、素直に喜んで謙虚に学ぶ姿勢が必要だよな。

井上 そんなに褒められると照れます



ね(笑) 最近、菅原さんはどんな事に取り組んでいますか。

すがわら 今年度は、市民生活委員会が疲弊する地域経済、雇用対策に力を入れていきます。なんとか議員立法で「中小企業振興条例」を成立させて地域経済を活性化したいです。企業の99%は中小零細企業ですからね。地元の企業を育てる意識を戸田市にも育て、ぜひ早急な対策を行いたいです。市だけではないのですが、子どもにツケをまわさないための行財政改革と、同時に世代間の不均衡の適正化を図らなければ。問題は戸田市だけにとどまらないですね。白土さんはいかがですか。

白土 私は監査委員として独立した立場で市の財政を監査しています。最小の経費で最大の効果かどうか、組織や運営の合理化が進んでいるかどうか、住民福祉の増進に努めているか、といったところをポイントに、市民の視線で鉛筆一本無駄にしないように頑張っています。いわば春日部版の一人事業仕分けといった感じです。

井上 私は待機児童対策ですね。戸田市と同じく和光は平均年齢が若く、子育て世代が多いのです。保育園の増設を提案し続けていますが、厳しい財政

状況という現実もあります。先日も菅原さんと江東区に行きましたが、先進自治体の様々な子育て支援策を視察に行って、市議会に提言しています。

すがわら 現場で見たことや聞いたこと、声なき声を政治に活かす。議員活動の基本じゃないかと。そして、重要なのは、我々は市民の皆さんを選んでいただいて、いかに動いて期待に応えるか。ただじーっと議会の椅子を温め

ている事を期待されているわけではないですよ。我々が、議会の中でどれだけ質の高い政策を提言して、実現させたか。成果を出すことが問われていると思います。もちろん出来なかったら、きちんと出来なかった理由を説明することも重要ですよ。

白土 政治家の説明責任はこれからの政治家の最低条件ですね。お互いに頑張らしましょう。



白土 マックス・ウェーバーは「政治とは、情熱と判断力を駆使しながら、堅い板に力を込めてじわっじわっと穴をくり貫いていく作業だ」と言ったんだけど、この名言は我々に何を投げかけていると思いますか。

すがわら 座右の銘といえるほど好きな言葉です。私は、目標に対してプレ

ずに、諦めずに、腹を据えた決意をもって真摯に挑みなさいと、言われているように感じます。市民のために「道」を拓くのが政治家の役割だと確信していますよ。

井上 情熱を失えば、困難を乗り越えられないですし、判断力がなければ、今の普政権のようになってしまいますよね。目標に向かって何度か何度か

挑戦することが現状を打開することではないかと。私も肝に銘じて頑張ります。

すがわら 私は、政治家自身が試されているんだと思います。だから政治を変えるには、政治家が変わらなければならないと、今ほど感じている時はありません。

白土 我々はまだまだ若輩です。だけど、しがらみがない立場で政治を語り、口だけではない政策知識と行動力で、身を呈して政治を変えられると思います。それぞれの目標に向かって、市民のために頑張らしましょう。

すがわら 本日は、ありがとうございました。



白土幸仁 36歳

(しらとゆきひと)

昭和48年12月24日生まれ

帝京大学卒業

平成15年～
春日部市議会議員(3期)

無所属 春日部市監査委員

若手政治家養成塾代表(初代)



井上航 31歳

(いのうえわたる)

昭和54年10月1日生まれ

立命館大学卒業

平成19年～
和光市議会議員(1期)

無所属 和光市総務常任委員

若手政治家養成塾代表(第2期)

すがわら「政治家が変わらなければならぬと、今ほど感じているときはありません」
白土「口だけではない政策知識と行動力で、身を呈して政治を変えられる」